

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学実験			17342	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究のとりわけ実験的な手法について、問題と目的の設定、実験計画の方法、実験手続き、結果の処理、考察にいたるまでのプロセスを学ぶ。実験実習を通して「実験の計画立案」と「統計に関する基礎的な知識」について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）とA（自律）を養う。

授業の概要

知覚から記憶までの広い範囲にわたる基礎的な実験心理学の課題に、学生各自が実験者・被験者となって取り組みながら、その手法を学んでいく。各実験毎にレポートを課す。各実験とレポートの書き方、説明とがワンセットになっているので、いずれか一方を欠席するとレポートは書けないことになるので注意すること。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.心理学実験と統計の基礎知識
- 3.知覚1ーミューラー・リヤー錯覚
- 4.知覚2ーミューラー・リヤー錯覚
- 5.認知・学習1ー鏡映描写
- 6.認知・学習2ー鏡映描写
- 7.記憶と忘却1
- 8.記憶と忘却2
- 9.要求水準1
- 10.要求水準2
- 11.日常記憶1
- 12.日常記憶2
- 13.社会的促進1
- 14.社会的促進2
- 15.まとめ

授業の方法

主に実習（実験）形式で行う。

準備学修

平均値の求め方を復習しておく。各実験レポートを作成する。（10

時間)

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

留意事項

結果の処理にあたり、各自電算機を用意しておくこと。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理的アセスメント			17344	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中植 満美子	選択	2	臨床心理士、教育相談員（神戸市教育委員会）、 小・中スクールカウンセラー（神戸市）			

授業の到達目標

心理的アセスメントの目的及び倫理、そして心理的アセスメントの観点及び展開について学ぶ。心理的アセスメントの方法（観察、面接及び心理検査）を実際に体験し、その分析結果を適切な記録及び報告としてまとめることが出来るようになる。基本的な心理検査を通じて自己分析し、自己理解につなげる。また、子ども理解を深めるために、子どもの発達状況を捉える発達検査や知能検査について知り、実施方法を学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのI（知性）とE（倫理）を養う。

授業の概要

基本的な心理検査・発達検査・知能検査等を、検査者・被験者の両方の立場で体験し、検査の背景・実施方法・検査結果のまとめ方を学び、身に付ける。課題ごとに検査結果の所見をレポートにして提出する。

授業計画

- 1.はじめに：心理検査法概論
- 2.東大式エゴグラム
- 3.矢田部・ギルフォード性格検査
- 4.コーネルメディカルインデックス
5. BIG FIVE尺度
- 6.津守・稲毛式乳幼児発達診断1
- 7.津守・稲毛式乳幼児発達診断2
- 8.遠城寺式乳幼児分析的発達診断検査
- 9.新版K式発達検査①
- 10.新版K式発達検査②
- 11.新版K式発達検査③
12. WISC知能検査①
13. WISC知能検査②
14. WISC知能検査③
- 15.総括・期末試験

授業の方法

毎回テーマとなる検査を実施し、検査結果の所見をレポートで提出させる。

準備学修

Webで参照すること。

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

全てのレポート作成と提出で合格となるため、欠席は認められない。やむを得ず欠席した場合は必ず教員指定の日時に補習を受けること。

テキスト

『心理的アセスメント』の手引き（中植満美子）開成出版より出版予定。本年度までは、資料として授業中に配布予定。

参考図書

適宜紹介する。

留意事項

検査についての事前学習・事後学習を行い、理解を深めること。

教員連絡先

nakaue@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。オフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈心理・臨床・発達〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
心理学文献講読 1			17385	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

心理学研究をすすめるうえで基礎となる幅広い分野の実験論文や研究レビューの論文について、国内の文献を原典に当たりながら、読解をすすめてゆく。心理学的な視点で現象をみてゆく基本的な方法の習得と同時に、研究をすすめるうえでの文献参照および論文展開の方法についても同時に学んでゆく。このクラスではKAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を目指す。

授業の概要

子どもの心理的発達、母親の育児、子どもの行動などについて、いくつかの論文を購読する。学術論文には、決められた構造がある。本講義では、心理学の学術論文を実際読み、心理学における研究とはどんなものかを理解することを目的とする。指示された論文の箇所を購読し、授業中に議論を行う。

授業計画

1. オリエンテーション
2. 学術論文の構造
3. 子どもの発達に関する研究論文の購読(1)
4. 子どもの発達に関する研究論文の購読(2)
5. 子どもの発達に関する研究論文の購読(3)
6. 母親の育児に関する研究論文の購読(1)
7. 母親の育児に関する研究論文の購読(2)
8. 母親の育児に関する研究論文の購読(3)
9. 子どもの行動に関する研究論文の購読(1)
10. 子どもの行動に関する研究論文の購読(2)
11. 子どもの行動に関する研究論文の購読(3)
12. 子どもの行動に関する研究論文の購読(4)
13. 子どもの行動に関する研究論文の購読(5)
14. 子どもの行動に関する研究論文の購読(6)
15. 子どもの行動に関する研究論文の購読(7)

授業の方法

論文を読み、それについて授業中に小レポートを作成する。簡単な議論も行う。

準備学修

予習・復習を毎日30分行う。

課題・評価方法

議論後、担当教員によるフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

適宜配布する。

参考図書

適宜紹介する。

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
生活文化概論			17405	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

子どもの生活は、遊びそのものであり、子どもの人格は遊びを通して形成されるものであるとも言える。日本は四季に富み、四季にまつわる様々な子どもを取り巻く記念日・行事がある。この素晴らしい日本の文化を後世に伝えていくことの重要性を理解し、子どもの生活文化の様々な側面を学ぶことを目的とする。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのA（自律）とI（知性）を考える。

授業の概要

現代社会に生きる子どもたちの生活や文化に焦点をあて、そこに生きる子どもたちの諸相を見ていく。体験的学習を織り交ぜ、学生が自らの体験を通して、子ども文化のイメージがもてるようにする。

授業計画

1. 授業の目的 生活科を踏まえて考える生活文化概論
2. 子ども文化の意義、定義とその構造
3. 子どもを取り巻く生活環境の変化
4. 子どもを取り巻く生活環境について
5. 現代の子どもたちの遊びと生活
6. 集団遊びの重要性(室内)
7. 集団遊びの重要性(戸外)
8. 自然とのかかわりについて
9. 自然の中での遊びの重要性
10. 地域、公共物とのかかわりについて
11. 児童文化財について
12. 伝承遊びについて
13. 季節の遊びについて(お正月)
14. 1年を通して、季節の子どもの文化と遊び
15. まとめ・定期試験

授業の方法

講義・演習・実践により進める。

準備学修

webで参照すること。

課題・評価方法

レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。
平常点70%、定期試験30%

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

必要書類については、随時プリントを配布する。

参考図書

子どもとあそび 仙田満著 岩波新書
児童文化 皆川美恵子、武田京子著 ななみ書房
子どもに伝えたい年中行事・記念日 萌文書林

留意事項

実践を多く取り入れるため、授業計画についてはかなり変更があるので、教学課前のボードを確認しておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳幼児心理学			17445	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
	選択	2				

<p>授業の到達目標</p> <p>乳幼児期の運動・知覚・認知・知性・言葉・社会性・遊びの発達について学ぶ。このクラスではKAISEIパーソナリティのI（知性）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>新生児や乳幼児が獲得する能力の豊かさや多様性についての知識を深めるとともに、保育場面においてそれらを育み、促進する大人のかかわりについて検討する。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.はじめに:乳幼児心理学とは 2.乳幼児の心の発達Ⅰ:錯覚と発達 3.乳幼児の心の発達Ⅱ:錯覚から脱錯覚へ 4.胎児の発達 5.新生児の能力 6.人との関係の中で育つ子どもⅠ:アタッチメントの基本的性質 7.人との関係の中で育つ子どもⅡ:生涯発達におけるアタッチメントの意味 8.知的能力と学び 9.乳幼児期の発達Ⅰ:言葉 10.乳幼児期の発達Ⅱ:自己と感情 11.乳幼児期の発達Ⅲ:社会性 12.発達臨床心理的援助の基礎Ⅰ:子育て 13.発達臨床心理的援助の基礎Ⅱ:親としての成長 14.乳幼児虐待 15.発達の偏りと支援 <p>授業の方法</p> <p>講義とグループワークを行う。</p> <p>準備学修</p> <p>授業のあとに復習が必要である。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>定期試験（50％）、小レポート（20％）、出席（15％）、授業後の</p>
--

<p>感想文（15％）</p> <p>欠席について</p> <p>5回を超えた欠席は不合格とする。</p> <p>テキスト</p> <p>適宜配布する。</p> <p>参考図書</p> <p>遠藤俊彦・佐久間路子・徳田治子・野田順子 『乳幼児のこころ 子育ての発達心理学』 有斐閣</p>

専門分野科目〈こどもの生活世界〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
学習・言語心理学			17447	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

<p>授業の到達目標</p> <p>人は言語を獲得することを通して、思考や行動の統制、気持ちを表現する力を身に付ける。本講義は「人の行動が変化する過程」と「言語の習得における機序」について学ぶ。人が新たに行動を獲得する心理学的な理論及び、言語を獲得する発達過程、言語の持つ力、心理学のナラティブ理論について学ぶ。このクラスでは、KAISEIパーソナリティのK（思いやり）とI（知性）を養う。</p> <p>授業の概要</p> <p>子どもの行動の学習とことばの発達過程について学ぶ。前半は、人が新しい行動を身につける過程を示した学習理論や、動機づけ、認知について学ぶ。後半は、言葉の発達過程を中心に、言葉と自己、思考、行動のコントロールについて学ぶ。また、言葉に関わる心理学の分野であるナラティブについても学ぶ。</p> <p>授業計画</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.オリエンテーション 2.学習理論1 3.学習理論2 4.学習理論と動機づけ 5.自己とことば1 6.自己とことば2 7.ことばの発達1 8.ことばの発達2 9.ことばの発達3 10.ことばの発達4 11.思考とことば 12.行動のコントロール 13.ことばを育むために 14.ことばにおけるナラティブ理論 15.まとめ <p>授業の方法</p> <p>講義形式を中心に、具体例を紹介しつつ、基礎的な知識について学ぶ。授業で学んだことを振り返る時間も設ける。</p>

<p>準備学修</p> <p>毎日30分程度、予習・復習を行う。</p> <p>課題・評価方法</p> <p>振り返りの後、担当教員によるフィードバックを行う。 平常点30％、定期試験70％</p> <p>欠席について</p> <p>学内の規定に従う。</p> <p>テキスト</p> <p>松川利広監修 横山真貴子編著 『子どもの育ちとことば』 保育出版社</p> <p>オフィスアワー</p> <p>直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。</p>

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
乳児保育 I			17778	I	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
渋谷 美智	選択	2	公立保育所保育士			

授業の到達目標

乳児期（3歳未満児）の発育・発達と保育について学び、保育所や乳児院等における乳児保育の現状と課題についても理解する。なお健全やかな成長を支えるための生活と遊びなど乳児保育の理論や知識・技術の具体的な事例を通して実践力を身につける。このクラスではKAISEIパーソナリティのK(思いやり)とI(知性)E(倫理)を考える。

授業の概要

わが国における乳児保育の歴史の変遷と保育所・乳児院・家庭の現状を把握しながら、保育所や乳児院の果たす役割、乳児保育を担当する保育者としての役割を自覚する。また、乳児を集団で保育することについて、保育現場での具体的な課題、いわゆる保育環境や長時間保育での乳児の生活の仕方など援助の実態を理解し、乳児の保育にあたる保育者としての専門的な能力を身につけられるようにする。

授業計画

1. 乳児保育とは(DVD視聴「乳幼児の発達と保育 0歳児」)
2. 乳児保育の理念と歴史の変遷
3. 乳児の保育と思春期への育ち
4. 愛されて育つということの意味(DVD視聴「アタッチメント関係」)
5. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
6. 乳児期の発達と保育内容(DVD視聴「乳児の成長記録」)
7. 乳児の環境と人間関係(DVD視聴「環境構成」)
8. 乳児保育の実態(教室を出て実体験)
9. 乳児期の生活と保育
10. 保育所における乳児保育
11. 保育所以外の施設における乳児保育
12. 乳児期の保育課程と指導計画
13. 地域における子育て支援
14. 乳児期における連携・協同 まとめ
15. まとめ 試験

授業の方法

講義と演習を中心とし、内容に沿ったDVD視聴を取り入れたりと、実

際体験をする。

準備学修

Webで確認すること。

課題・評価方法

平常点30%、定期試験70%
レポートの提出を求め、講義の中でフィードバックを行う。

欠席について

出席状況も成績評価の対象とする。

テキスト

新時代の保育双書 乳児保育第3版 (株)みらい 大橋貴美子編

参考図書

乳児保育の基本 責任編集 汐見稔幸・小西行郎・榊原洋一 フレーベル館
保育の内容・方法を知る 乳児保育〔新版〕 増田まゆみ編著 北大路書房
保育所保育指針 日本保育協会
乳児の生活と保育 ななみ書房
あそびうた大全集 永岡書店

留意事項

教室を出ての実体験等を含むため、授業計画の変更もある。授業課前のボードをよく注意して見ておくこと。

教員連絡先

shibuya@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害児保育			17782	II	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

我が国における障害児保育の歴史の変遷を土台として、これからの保育実践について自分なりの実践方法を模索する。大きな課題の一つである保護者への支援に関しては、ペアレントトレーニングやSST等の心理教育でのファシリテーターの働きも学ぶ。さらに、様々な障害を理解し支援する上で必要な個別支援計画が作成できる保育者をめざす。このクラスは、KAISEIパーソナリティK(思いやり)とI(知性)を考える。

授業の概要

障害児保育は特別支援教育へとつながり、インクルーシブシステムの具現化が求められる。そこで、本授業では障害の理解に留まらず、個人がきちんと障害教育観を持つことで、教育現場で通用する基本的な保育技術を学ぶ。また、事例を活用して「この子にどんな支援が有効なのか、必要なのか」という教育的視点から討論する。

授業計画

1. 障害の理解と現在までの障害保育の概要
2. 肢体不自由児・難聴幼児通園施設の実態
3. 知的障害がある子どもの理解と支援
4. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 1
5. 学校園における発達障害がある子どもへの支援 2
6. 様々な自閉症スペクトラムの理解と指導
7. 障害がある子どもの受け入れポイント
8. 障害がある子どもの受け入れに関する施設・設備の工夫と課題
9. 障害がある子どもの面談法
10. 障害がある子どもの行動観察法
11. 関係諸機関 専門医の診断法
12. 関係諸機関 保健センター、福祉関係機関
13. 家庭への子育て支援 幼児期の障害児への支援
14. 家庭への支援 健常者の保護者への啓発
15. 就学に向けての保護者との連携支援

授業の方法

講義を主とするが、双方向の討議も取り入れて受講者が主体的に参加できる形式も採り入れる。

準備学修

日常生活の一コマを、一つの考え方にこだわらずに複数の視点で考えてみる姿勢を望む

課題・評価方法

平常点70%、定期試験30%

欠席について

学内規定に準ずる

テキスト

若井淳二著『障害児保育テキスト』（教育出版）

参考図書

授業中に紹介する。

留意事項

国の障がい者施策および事業に関心を持つ

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。
各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
障害者・障害児心理学			17783	Ⅱ	秋	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
中園 佐恵子	選択	2	臨床心理士、公認心理師			

授業の到達目標

本講義では、障害をもつ子どもたちへの教育、障害理解のための心理社会的知識、特別支援教育の在り方を学ぶことを目的としている。「身体障害、知的障害及び精神障害の概要」と「障害者・障害児の心理社会的課題及び必要な支援」について、特別支援教育の観点から学ぶ。このクラスは、KAISEIパーソナリティーK（思いやり）とI（知性）を考える。

授業の概要

特別支援教育の制度、背景、どのような取り組みがなされているのかを学ぶ。それだけでなく、障害理解のために必要な専門知識を身に付ける。それらを踏まえ、子どもの一生涯における発達と教育の在り方について考える。

授業計画

- 1.オリエンテーション
- 2.特別支援教育の現状
- 3.視覚障害の理解と特別支援教育
- 4.聴覚障害の理解と特別支援教育
- 5.言語障害の理解と特別支援教育
- 6.知的障害の理解と特別支援教育
- 7.発達障害の理解と特別支援教育 1
- 8.発達障害の理解と特別支援教育 2
- 9.肢体不自由の理解と特別支援教育
- 10.それぞれの障害の理解と特別支援教育 1
- 11.それぞれの障害の理解と特別支援教育 2
- 12.特別支援教育の変遷
- 13.生涯発達支援について 1
- 14.生涯発達支援について 2
- 15.まとめ

授業の方法

講義形式を中心に、受講者が実際の教育現場でどのように実践するのかを考える時間を設ける。

準備学修

毎日テキストを30分程度、読む。

課題・評価方法

考える時間を設けた後は、担当教員からフィードバックを行う。平常点30%、定期試験70%

欠席について

学内の規定に従う。

テキスト

高橋 智 編著『インクルージョン時代の障害理解と生涯発達支援』（日本文化科学社）

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。

関連科目〈資格関連科目〉	クラス		科目コード	配当年次	期 間	人数制限
教育実習指導（小学校）	教職小		17785	Ⅲ	春	
担当者名	区分	単位	科目と関係のある実務経験			
大岸 啓子	選択	1	公立小学校教員			

授業の到達目標

小学校で教育実習を行う責任と心構えを認識するとともに、実習に必要な知識・技術を身に付ける。また、教育実習の成果と課題を振り返り、さらに身に付けるべき知識や技能等について理解する。このクラスでは、KAISEIパーソナリティーのI（知性）とE（倫理）の育成を目指す。

授業の概要

教育実習に必要な基礎的・基本的な知識、教育現場の現状や実習中の心構え等について講義を進める。また、具体例や実践を通して、小学校教師の様々な仕事と職責について学ぶ。

授業計画

- 1.受講の心構え・授業内容についてのガイダンス、小学校教育実習を受ける前に
- 2.実習校との事前打合せ、小学校の組織と日程
- 3.実習中の心得（勤務、礼儀、言葉遣い、服装、持ち物）
- 4.実習中の心得（学級経営、給食指導、休み時間）
- 5.児童や教職員との接し方
- 6.実習記録の書き方
- 7.学習指導と生徒指導
- 8.算数科模擬授業（低学年）
- 9.算数科模擬授業（高学年）
- 10.教育実習の成果と課題

授業の方法

書く活動と発表を多く取り入れる。

準備学修

テキストの指定ページを予習したり、指導案を作成したりしておくこと。詳細については、Webで参照すること。

課題・評価方法

- ①指導案と模擬授業について、評価とアドバイスをを行う。
- ②評価方法は平常点70%、定期試験30%とする。

欠席について

欠席は10点減点し、遅刻は3点減点する。

テキスト

石橋裕子・梅澤実・林幸範『小学校教育実習ガイド』萌文書林

参考図書

文部科学省『小学校学習指導要領解説』東洋館出版社

留意事項

小学校教育実習の知識や技術を修得し、教師としての心構えを学ぶ授業であることを認識して授業に臨むこと。

教員連絡先

ogishi@kaisei.ac.jp

オフィスアワー

直接教員に質問したい場合は、オフィスアワーを活用すること。各教員のオフィスアワーの日時については教務課前掲示板を確認のこと。